

# 創造力をかきたて、ものづくりの楽しさを伝えたい

## NPO法人コアネット・株式会社 明電舎の取組

(以下「コアネット」・「明電舎」という。)

今、団塊の世代の地域貢献活動に注目が集まっています。企業を退職した後、身に付けたスキルを生かして教育支援活動に参加する方も増えてきています。

そのような機運が高まりつつある中、ものづくりのプロとして活躍された様々な企業のOBが中心になって活動するコアネットと明電舎が、品川区立御殿山小学校6年生を対象に、「ものづくり教室」を開催しました。

### この授業のここがポイント!

#### NPO法人であるコアネットと、企業である明電舎との連携

●今回の取組は、品川区に「子供達に、ものづくりの楽しさを伝えたい」と協力を申し出していたコアネットと創立110周年記念事業として「ふれあい音楽教室」の開催を品川区の小中学校で予定していた明電舎が品川区教育委員会を通して出会い、話し合いを重ねる中で企画されたものです。授業で使用するメカ工作キット等を明電舎が提供し、組立てのサポートをコアネットのメンバーと明電舎の社員が行います。両者の願いは共に、子供達の豊かな体験活動の充実であり、ひいては将来の産業振興であると一致しています。子供達のために、同じ願いをもっているからこそよい連携ができたのだと感じました。

#### ものづくりの奥深さを体験できる授業

授業は理科室を会場に行なわれ、2クラス52名が参加しました。驚いたのは、スタッフの数です。その数、18名。全員が各班について子供達の作業をサポートします。

スタッフの説明に合わせて、作業開始です。机の上にきちんと並べられたメカ工作キットを早速開き、部品を点検していきます。魅力あふれるメカ工作キットを手にして、子供達には笑顔があふれています。必要なものだけをトレイにのせると、今度は説明書を片手に組立て開始です。今回用意されたメカ工作キットは完成すると、コロコロと回転しながら床を移動するメカになります。倒れてもひとりでに起き上がり走行を続けることもできます。モーターに電線を取り付け、スイッチや歯車をケースに収めていきます。理科室のあちこちから徐々に、「ケースにうまく入らないんだけど。」「そこは、どうやってつないだの。」「これはどうやって、つければいいのですか。」という声が聞こえています。友達と一緒に考えたり、スタッフに教えてもらったりしながら楽しく組立てが進んでいる様子がわかります。大人達は手を出しすぎないように、見守りながらサポート



することで、子供達が自分で考え試行錯誤する経験を積むことができるようにしていました。

授業の最後は、体育館で完成したメカで遊ぶ時間です。早く作りあげた子から遊べるとあって、作業に一段と熱が入りました。体育館には、コアネットスタッフ手作りの長さ1m、高さ10cmのL字型レールが用意され、子供達はコースを作って競争させたり、四角く囲ったスペースを作ったりして、遊んでいました。授業が終わり、体育館を後にする子供達の顔は満足感でいっぱいでした。



#### NPO法人コアネット 山本洋三さんにお話を伺いました。

「今日授業で組み立てたメカ工作キットは、子供達だけで完成させるのは難しいように作られています。親子が一緒に作るのであれば、親子のコミュニケーションを深めることができます。そんな仕掛けのある工作キットを今回選びました。ものづくり教室は単にものを作るだけじゃなく、作る過程で人とかかわり、コミュニケーションや表現する力を育てるこもを目指しています。」

#### 株式会社 明電舎 広報・IR部長 向俊行さんにお話を伺いました。

「当社は、明治30年に創業し、大正2年に当時の荏原郡大崎町に工場を開設いたしました。今年、創業110周年を迎える、本社を当社ゆかりの地である品川区大崎に移転させていただくことになりました。そこで、これまで私たちを支えていただいた地域の皆様への感謝の気持ちと、明日の日本の製造業を担っていただきたい子供達への期待を込め、「ものづくり教室」を企画させていただきました。また、企画・運営に当たっては、NPOコアネットに御協力をいただいています。開催に際しては、教育委員会と相談の上、区内小学校の希望も聞き日程調整を行いました。今年度に、品川区内の小学校9校で実施の予定です。」

#### 終わりに

●今回の授業では、ものづくりのプロであるコアネットや明電舎の方々が直接指導にあたっていました。子供達は真剣な面持ちで講師の方にサポートしてもらいながら組み立て、全員が完成させることができました。完成させたときの誇らしげな表情とはじける笑顔は、忘れられません。このように、子供達にとって価値のある体験活動を推進するためには、企業や専門家の方々にお手伝いいただくことも大変効果的です。皆さんのお学校や地域でも、このような連携を進めてみませんか？

